

ドクター和の  
ニッポン  
在宅医療を推進する仲間たち  
と劇団を立ち上げ、今年で3年  
目を迎えます。書籍や講演では  
伝えきれない「尊厳死」「平穏  
死」の本質を演劇を通して市民  
に啓発したいという想いから  
『ピンポンコロリなんか無理な  
ん知つどう?』という公演を始  
めて、3作目に入ります。

劇団名は当初、私が

「劇団死期」と名付け

ました…しかし、こん

なん浅利慶太さんに知

られたら、むっちゃ怒

られるやうなあと一抹

の不安を覚え、劇団

ザイタク」と変え阪神

間で上演しています。

さて、劇団四季の創

設者であり偉大な演出

家であった浅利さんが

7月13日に都内の病院

## 命の終わり決めるのは誰



### 66 浅利慶太

演劇界に大きな功績を残した浅  
利慶太さん

断を受けたのは昨年9月のこと  
でした。抗がん剤による治療を  
続けながら、昨年12月には『こ  
の生命誰のもの』、今年4月に  
は『ミュージカル李香蘭』の演

演も治療成績が高く、完治もあり  
ます。

浅利さんが悪性リンパ腫と診  
断を受けたのは昨年9月のこと  
でした。抗がん剤による治療を  
��けながら、昨年12月には『こ  
の生命誰のもの』、今年4月に  
は『ミュージカル李香蘭』の演

りが大きくなるまで見過ごされ  
ました。それでも痛みを伴わないため、しご  
りが大きくなるまで見過ごされ  
ることがあります。数週間経つ  
ても消えない腫れやしぐりがあ  
つたら、内科で血液検査やエコ  
ー検査を受けてください。

悪性と名がついているだけに  
怖いイメージがありますが、早  
期発見できれば、固形がんより  
も治療成績が高く、完治もあり  
ます。

4年に亡くなった高倉健さん  
も、この病気でした。血液から発生するがんの  
なかでもリンパ球ががん化する  
病気で、年間1万人あたり1人  
が発症します。60歳～70歳台に  
多く、3対2の割合で男性に多い  
血液がんの1種です。2011

年も治療成績が高く、完治もあり  
ます。

主人公は事故で全身麻痺(ま  
ひ)となった彫刻家。創作活動  
を奪われた彼は死ぬ権利を主張  
するも、主治医は延命治療の必  
要性を主張します。

その台詞(せりふ)の応酬  
は、40年前の海外作品とは思え  
ないほどリアリティーにあふ  
れ、胸をえぐります。

浅利さんは何度も『この生命  
誰のもの』を再演し続けまし  
た。命の終わりを決めるのは誰  
か? 本来なら医者がすべき仕  
事を、浅利さんが何百倍もの情  
熱をもって啓蒙(けいもう)し  
てくださいました。私は日本尊厳  
死協会副理事として、大きな敬  
意と感謝しかありません。

しかし、浅利慶太さんの命は  
誰のものだったか? と問われ  
たら、それは御本人のものであ  
つたというより舞台の神様のも  
のであり、全国の演劇ファンの  
ためのものだったような気がし  
てなりません。

## 臨終四巻

ドクター和の  
ニッポン



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東大第1兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。

出を手掛けました。『この生命

誰のもの』は、「尊厳死」を扱

った名作舞台です。1978年

にロンドンで初演されたもの

を、浅利さんはその翌年に日本

で、どこの場所にできてもおか

しくないのですが、特に首や脇

の下、腿の付け根などに腫れやし

に持ってきたのです。